

## 令和 7 年度 第 1 回学校関係者評価委員会

日時:令和 7 年 9 月 26 日(金)19:00~19:50

場所:長崎医療技術専門学校 会議室

出席者:学校関係者評価委員 5 名:小林小夜子、有福浩二、大坪 健、吉岡正恒、藤本 努

本校職員 6 名:淡野、韋、福島、増本、荒木、山内

記録:増本

### 1.出席者紹介(自己紹介)

### 2.校長挨拶(淡野校長)

#### ・入試の状況報告

昨年度は定員の半数(理学 23 名、作業 17 名)でのスタートとなった。背景には、大学進学の容易化などがあると考えられる。

今年度の総合型選抜は、オンラインでの実施も行ったが、現時点で合格者は 3 名(理学 1 名、作業 2 名)と昨年の半数にとどまっている。

今後は指定校推薦が中心となる。オープンキャンパスの参加者は昨年を上回っており、期待している。

### 3.前回会議後の報告

#### ・前期行事、取り組み報告(増本)

従来 4 月末に実施してきた他学科他学年との交流行事『イギセンさるく』は、3 年生の実習期間と重なるために実施困難となった。このため代替として、今年度は 4 月 8 日に『新入生歓迎行事』を始めて行った。

実施後アンケート結果から、学生の 8 割が『楽しかった』『他学科と交流できた』と肯定的に評価した。一方で、在校生からは従来の『イギセンさるく』の行事を望む声や、新入生からは『クイズ内容が難しかった』という意見が挙がった。今後は内容を検討し、より良い行事を目指していく。

### 4.開会(韋)

当委員会は第 6 条の規定による出席数を満たしており、本委員会は適切に成立していることの確認。

### 5.委員長選出(韋)

委員長は小林先生で進めさせていただく。

### 6.審議事項

#### 1) 令和 7 年度学生アンケート結果について(報告:山内)

##### ・調査概要

8/8~8/31 の期間で実施。回収率 92.2%

##### ・評価結果の詳細

多くの項目で 8~9 割の学生が満足していると回答。

一方で『学校のスケジュールや行事が把握しやすい』という項目は、77.9%と他の項目より低く、課題であることが示された。全体として、学校の取り組みには高い満足度が得られている。

##### ・自由記述の主な意見

校則:ピアス、染髪、ネイル等の禁止理由が不明確であり、実習時のみ身だしなみを整えるのでは駄目なのか、という意見があった。

連絡:講義日程などをより早く知らせてほしいという要望があった。

#### 2) 令和 7 年度保護者アンケート結果について(報告:荒木)

##### ・調査概要

調査期間は 8 月 25 日~9 月、回収率は 65.9% (昨年の 35.8%から大幅に向上)。

##### ・結果

「学校のスケジュールや行事がわかる」という項目は、肯定的な意見が約45%に対し、否定的な意見も約32%を占めた。

授業内容や安全管理、教員のサポート体制など多くの項目で高い評価を得たが、「保護者から学校に連絡が取りやすいか」という点では約4分の1が否定的な回答だった。

・自由記述の主な意見:

スケジュール: 学生同様、早めの情報発信を望む声が多かった。

その他: 授業参観のような、学生生活の様子を知る機会を望む声があった。

### 3) 意見交換

#### テーマ1: 校則(頭髪・ピアスなど)について

(大坪) 学生アンケートにある「ピアスや髪染め、サンダルでの登校がなぜ禁止なのか理由がわからない」という意見について、学校側が学生にどのように説明しているのか。

(山内) 現状では学則で禁止していると説明。その理由として、実習時と平常時との区別(メリハリ)がつけられていない学生がいることを挙げた。長期休みに髪を染め、学校が始まっても元に戻さないといったケースがある。

(大坪) この問題に関して、学生全体や保護者にもアンケートを取ってみてはどうか。

(増本) 今年度からクラス委員会を立ち上げ、学生の意見を聞きながら時代に合わせた校則の見直しを検討し始めた段階であり、長期的な課題と捉えている。

(韋) 学校としては、教育機関として学生に自己をコントロールする力を身につけさせたいという思いが根底にある。

(山内) この学校の「身だしなみに厳しい」という評判は強みでもあるため、一方的にルールを緩めるのではなく、学生の代表と協議しながら適切な落としどころを探っていきたい。

(藤本) 自身の子どもも「他の学校はいいのに、なぜこの学校はダメなのか」と話していることを共有した。親の立場としては、長期休み中に髪を染めるなど、学生のうちに個性を表現したい気持ちは理解し許容している。ただし、学校へ行く前には黒く染め直させているものの、色が抜けてきてしまう点が悩ましい。

(有福) 臨床の現場では、ルールはないが職員の中からランダムに対象者を選び自己評価はもちろん他己評価をすることで見られているという意識を持つようにしている。

(小林) 過去に保育士養成に関わった経験から、実習においては受け入れる施設や保護者の視点も考慮する必要があると学生に指導していた事例を紹介。「あなたの良さが、その髪の色で判断されてしまっても良いのか」と学生に問いかけ、自分自身のこととして考えさせることが重要。

実習先の考えなどを学生に伝えることが、学生自身が判断基準を形成する助けになる。

(吉岡) 自身の子どもも大学に入ってすぐに髪を染めた経験を話し、「若い子がおしゃれをしたい気持ちもわかる」。一方で、この学校は他校に比べて学生をしっかり指導してくれるという印象があり、厳しい身だしなみの指導もその一環として肯定的に捉えている。

#### テーマ2: スケジュール(予定の早期通知)について

(吉岡) 学生と保護者の両方のアンケートで「スケジュールを早めに出してほしい」という意見が目立っている点に触れ、改善の余地はあるのか。

(藤本) 自身の経験として、長期休みの旅行を予約した後に学校の予定が入り、子どもを欠席させたことが2回あった。

(山内) 日々の授業変更などはGoogleカレンダーで共有しているものの、学生や保護者が求めているのは、帰省の飛行機予約などのため、数ヶ月先の長期休み(夏休み、冬休みなど)の確定した日程だと推測している。学年によって休み期間が大きく異なるため、それぞれに合わせた情報提供の工夫が必要。

(章) 天候による休講などの突発的な予定変更は、カリキュラム進行との兼ね合いもあり、直前の判断にならざるを得ない場合がある。

(小林) 天候による休講などに備え、あらかじめ補講期間や予備日を設けておくという事はできないか。

(福島) 予備日を設ける案は良いものの、試験後に予定している外部講師を招いてのイベントなどの日程が流動的になってしまうという問題があり、実施が難しい現状を説明。どちらを優先するかの判断が難しい。

### テーマ3：学校案内について

(藤本) いつも学校のInstagramを見ている。学校の楽しそうな様子がよくわかる。保護者のアンケートの案内にInstagramのQRコードを載せてみてはどうか。

(福島) 参考にさせていただく。

### 7. 総評

(小林) 学生と保護者のアンケート結果が、特にスケジュールに関して同様の課題を示している点が印象的だった。最大の課題であるスケジュール問題について、改善策として「予備日」を1日でも設けてみるなど、具体的な検討を進めてはどうか。

### 8. 閉会

司会より閉会が宣言される。

次回開催についての案内：令和8年3月27日（金）19:00から。

### 9. 謝辞（校長）

参加者への謝辞が述べられた。多様な意見を真摯に受け止め、今後の学校運営に活かしていきたい。